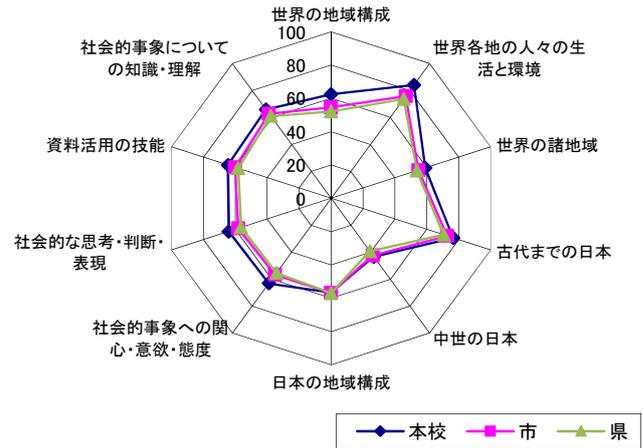


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	62.6	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	84.2	75.9	73.7
	世界の諸地域	59.1	54.8	53.9
	古代までの日本	76.5	72.7	70.5
	中世の日本	43.2	42.4	39.3
	日本の地域構成	56.5	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	63.1	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	64.1	58.1	56.4
	資料活用技能	64.6	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	66.0	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○緯度と経度の表し方、世界の地域区分など基本的な内容はおおむね身につけており、市や県の正答率より10ポイント程度上回っている。	・さまざまな地図の読み方など、世界地理の学習を進める上での基本的な内容を確実に身につけさせていく。
世界各地の人々の生活と環境	○領域の正答率は、84.2ポイントで、世界のさまざまな地域に住む人々の生活について、その特徴をおおむね整理・理解できており、市や県の正答率より10ポイント程度上回っている。	・世界のさまざまな地域に住む人々の生活について、他の地域との違いを整理し、表などにまとめるなど工夫していく。
世界の諸地域	○ヨーロッパの経済格差について、資料をもとに判断することの正答率は88.1ポイントで、県の正答率を7.3ポイント上回っている。 ●資料を丁寧に読みとったり、複数の資料を関連づけて考えたりすることが苦手な傾向が見られる。	・資料活用を重点的にを行い、資料の特徴に応じた読み取りや複数の資料を結び付けたりする機会を設ける。
古代までの日本	○竪穴住居や墾田永年私財法などについての正答率は90ポイントを超え、古代の歴史的事実について、十分に理解できているといえる。	・古代の歴史について、日本と世界を関連させながら、図などを用いてノートにまとめさせる。
中世の日本	○戦国大名による支配などの歴史的事実について、基礎的な知識はおおむね身につけているといえる。 ●歴史の流れを大きくとらえることが弱い。 ●資料を活用し、事実を結び付けたり、まとめたりすることが弱い。	・中世の歴史について、中世という時代を大観させるために、時代の流れを捉えさせる。そのために、誰が何をしたかだけでなく、「なぜ・どうして・その結果どうなったか」まで追求させていく。
日本の地域構成	○日本の地域構成について、基本的な知識・技能はおおむね身につけているといえる。 ●排他的経済水域についての理解が不足しており、正答率は51.1ポイントで、県の正答率を5.1ポイント下回った。	・日本の領域の問題を、資料を活用し、周辺諸国との関わりを考えさせながら、日本の領土であるという主張ができるように理由などをノートにまとめさせる。